

美術部室でひとりデッサンに励んだ三十年前が、セピア色の映画のように懐かしい。 相高は創作人生マラソンのスタートライン^(※1)

高普第8回卒 横山 尚人^(※2)



約一ヶ月のパリ個展を終えて帰国した後、引き続き仙台藤崎の個展をつい先程終えたところです。
会場には相高級友達が大量来てくれ嬉しく思いました。



この後、秋の東京個展準備のため正に暑い夏を迎えようとしています。
私は東京に在住しガラスアートの制作を仕事としています。

相高は私にとって現在の仕事即ち長い創作人生マラソンのスタートラインとなったところです。
夢と希望とそしてそれと同じ位の不安を抱えて芸大受験のために美術部室でひとりデッサンをしていた30年前のあの頃がセピア色の映画を見るように懐かしく思い出されます。

未知なる将来に向かって希望と不安とが交錯する毎日でしたが不安より夢の方が少し勝っていたのだと思います。

そして今でもそうだからこうして走り続けてこられたしこれからもそう出来るのだと思っています。

夢は、正に夢のようにあまいものであると同時にすべての活力の源動力となる力強いものでもあるのだということを相高時代の思い出の中に思い起こしています。

(※1) 創立90周年記念誌『紅の旗』(1988(昭和63)年9月2日発行)

「今こそ伝えたい、希望と勇気を～OBから若駒への熱きメッセージ～」より。

(※2) 旧姓斎藤。1956(昭和31)年卒。鹿島出身。

- ・ 1962年 東京芸術大学工芸科卒業
- ・ 1984年 「84日本のガラス展」奨励賞受賞
- ・ 1985年 「第2回世界現代ガラス展」指名出品(北海道立近代美術館)
「日本のニューグラス展」招待出品(西ドイツ)
- ・ 1986年 個展「横山尚人グラスデコール展」(日本橋高島屋)
「日本のガラス三百年展」招待出品(サントリー美術館)
「ガラスの表現展」買い上げ出品(スイス)
- ・ 1987年 「日本のスタジオグラスアート展」招待出品(ニューヨーク)
- ・ 1988年 パリ個展(クラスクルミニギャラリー)
所蔵美術館 コーニングガラス美術館・ローザンヌ装飾美術館・パリ装飾美術館・東京国立近代美術館
- ・ 現在(註:創立90周年記念誌発行当時) 日本ガラス工芸協会理事長

(転記&※脚注 村山)